

まち・潮月まち・港町

みたらい 御手洗 通り

町並み保存地区みらい情報誌

みらい句集 ——— 1

御手洗ものがたり

御手洗天満宮の由来 ——— 2

リレーエッセイ 私の中の御手洗

いつかは、帰るべき故郷。—3

特集

96御手洗やぐら祭り ——— 5

あの日、あの頃 ——— 7

なんでも伝言板 ——— 9



御手洗 重伝建を考える会

みたらし句集 その一

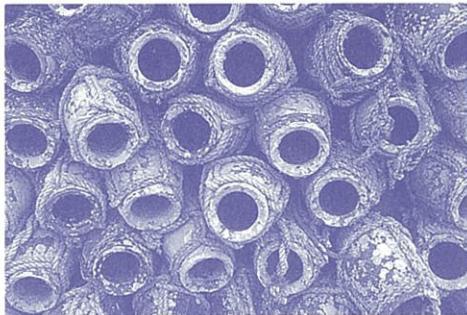
「凌霄に自在の雲を おきにけり」 清水（豊町）

「天の川 引きよせ島の宵祭」 のり子（豊町）

「芭蕉碑や木犀匂ふ崖の上」 勇（広島）

「瓢の実を遊女の庭に愛づるかな」 洋子（東京）

「舟大工 聽くしちりきも望くだり」 生氣（東京）



写真・上

御手洗やぐら祭りの提灯

写真・真ん中

海沿いの道にあったタコ壺

写真・下

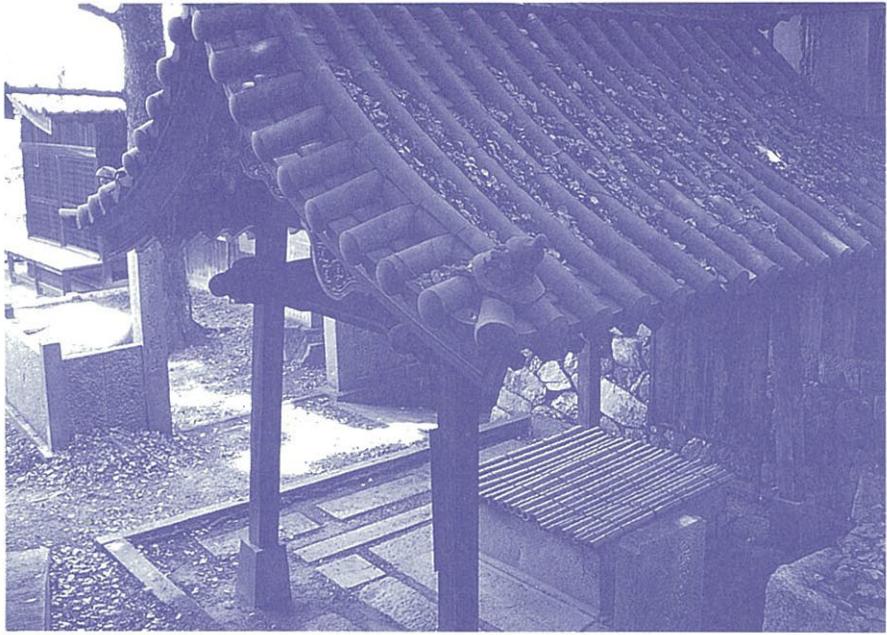
台風19号後、復元された千砂子波止の石組みに彫られた徳利

◎表紙の写真は

平野理髪店の孫

多田羅 友希さん

御手洗天満宮の由来



御手洗天満宮の裏にある井戸。境内には菅公の歌が刻まれた碑もある。

代々学者の家に生まれ、菅公と称された菅原道真（845～903）は宇多・醍醐両天皇の信任あつく、正二位、右大臣・賜太政大臣までのぼりつめた醍醐天皇廢位の陰謀ありとの中傷により、太宰權師に左遷された。京都から淀川を下り、瀬戸内海を通り太宰府に行く途中、御手洗渓に到着されたとき、我が身の不運と時平に対する怨みで、道真公は心身ともに疲れ果て、絶望のどん底にあった。

御手洗渓で風待ちする間に、この地にはどんなに日照りが続いても枯れることがなく、しかも無類に上品な味をしているという評判の湧水があることを耳にされた。

菅公は我が身を鞭打つように上陸し、その水で手を清め、口を漱ぎ、一服飲んでみたところ、鬱氣たちまちに晴れ五体に晴朗の気がみなぎった。

このことにより、神意を感じられ、悠然と新任地に赴く決意をされ、彼の地でも勉学怠ることなく、天寿をまつとうされた。

これらのことを見漏れ聞いた島の住民たちの手により、この湧水は菅公お手洗い井戸として大切に扱われ、いつしか小さなぼこらが井戸のほとりに建てられたが、大正4年御手洗住民の手によって現在の天満宮が建立された。

爾來、この井戸の水を飲むと賢くなり、この水で書き始めをすると字が上手になると言い伝えられ人々の深い信仰を集めている。

橋本 利男 (はしもと としお)

㈱イズミ取締役 衣料品部長

昭和23年(1948)御手洗生まれ、48歳。

昭和36年に御手洗を離れ、現在は広島市内在住。

子どもの頃は、家の近所の住吉神社や千砂子波止

が毎日の遊び場だったという。

実家は今も御手洗で家庭用品店を営んでいる。

いつかは、帰るべき故郷。

ふるさと

先日、ミカン箱が届いた。懐かしいふるさとの香りが我が家に溢れた。子供達は先を争つてミカンを食べる。うちの子供達、御手洗から送つてくれるミカンしか食べない。実は私もそう。このうまさは、ここらの店では絶対手に入らない。

御手洗を離れて、三十五年になる。ここ数年は、年に一度か二度しか、御手洗に帰れてない。子供達も大きくなり、それぞれの生活が忙しく、なかなか帰るチャンスがなくなつた。母が広島に来てくれるか、電話でやりとりするか…それしか御手洗との接触がなくなつてきてる。それだけにミカンの便りは懐かしいふるさとの香りなのだ。

私は中学から御手洗を離れた。御手洗で過ごしたのはわずか十数年、いつかは帰ろうと思いつつ、今日まできている。家業を継ぐこともなく、広島で生活している。気持ちは幾分かあった。東京での大学生活を終え、広島を就職先に選んだのだから。いつでも、すぐにでも、故郷に帰れる位置を確保していたかったのだ。

しかし、たまたま選んだ仕事が面白く、子供が生まれ、成長するにつれ、都会での便利な生活にドンブリと浸かり込み、御手洗へ帰る時期を逃してしまった。本籍は、未だに御手洗に置いてある。今も、心のどこかに「帰ろう」という気持ちがあるからだ。ほんのたまに帰省したときの心のやすらぎは、紛れもなく我が故郷なのだから。

御手洗にいる同級生が、それぞれ活躍していることを聞き、頬もしく思ふ。皆、生き生きと御手洗で生活しているのだ。ちよつびり羨ましさを感じてしまう。

五年前、台風直撃により、実家の側の住吉神社、波止場、灯台が無残な姿になつた。実家も床上浸水で大被害にあつた。(ほぼ同時刻、我が家にも大不幸があり最悪の年だったが)実家の周辺は、子供の頃の思い出にある景色と、現在は随分違つた景色になつてゐるが、やっぱり懐かしく、やすらぎを感じるところである。それが、私の中の御手洗である。



江戸時代から昭和初期
までに建てられた貴重
な建物の並ぶ御手洗。
今も人々の生活の中に
その姿を留めている。

‘96 御手洗やぐら祭り



大将がやぐらの上から投げた餅が大きく弧を描いて見物人の手に次々とキャッチされる。



力強く子どもやぐらを引っ張るお父さん。
それを見守るお母さん、お婆ちゃん。

御手洗やぐら祭りが今年も七月二十七日に行われた。この日ばかりは無礼講、どの家庭も祭り一色。昼は御手洗中の子どもを乗せた子どもやぐらが町の細い路地を引き回り、通り道の家々では「休んでいきんさい!」とスイカやアイスが振る舞われる。夜になれば、今度は約700kgというやぐらを背負つた大人たちが何度もやぐらを地面に投げ、そのたびに担ぎ直しながら祭りは夜中まで続く。その後は各々の家でごちそうを前に、夜を撤しての大宴会。今日は騒いで、騒いで、明日からまたがんばろう。やぐら祭りは今も、御手洗の人々の気持ちのけじめ、生活の要として、生き続けている。

スタート



住吉神社



町内の
中道を
引き回し
ます。



ゴール



住吉神社



タロ牛の
手作りアイス

やくら音頭

三ッキナ

アロハの

お父さんも

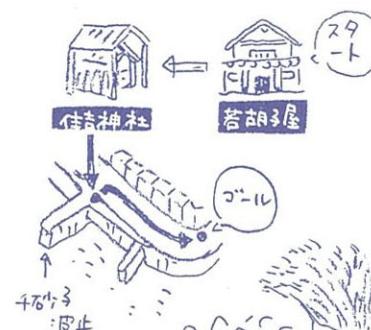
コロ

やくらを見守る人たち



二ともたちの
やくら

途中...ねえ子も...



スタート

住吉神社

若胡屋

ゴール



大人たちの
やくら

若胡屋へ集
合(じゆう)から、やくらの
ある住吉神社へ

中のタケの人は
絶対タケをやめとは

タケ→ドン

ドン→ドン

ドン→ドン

ドン→ドン

ドン→ドン

ドン→ドン

ドン→ドン

やくらからすい抜け
タケ(タケ)か絶対せり!

↓

こわきぐ返(か
かしまで)行(い)きます。

こわきぐ返(か
かしまで)行(い)きます。

こわきぐ返(か
かしまで)行(い)きます。

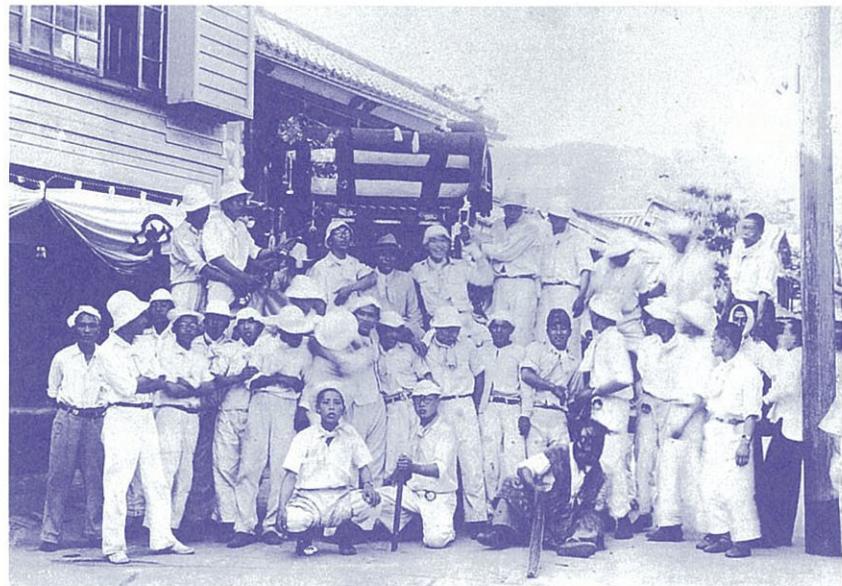
こわきぐ返(か
かしまで)行(い)きます。

あの頃

出のアルバム①

一九四一

昭和
16年



昭和16年、なまこ壁の屋敷横の洋館の前で撮影された、御手洗やぐら祭りの貴重な記念写真。この頃の服装、白い上下に白の帽子は今でも引き継がれている。

思い出のアルバム大募集!!

家族や仲間との楽しいスナップ、行事の記念写真、町並み、島の風景、以前からある家財道具を撮った写真など、大切にしまってある懐かしい写真を私達に見せてください。

連絡先：〒734-03 広島県豊田郡豊町御手洗

「重伝建を考える会」今崎 仙也

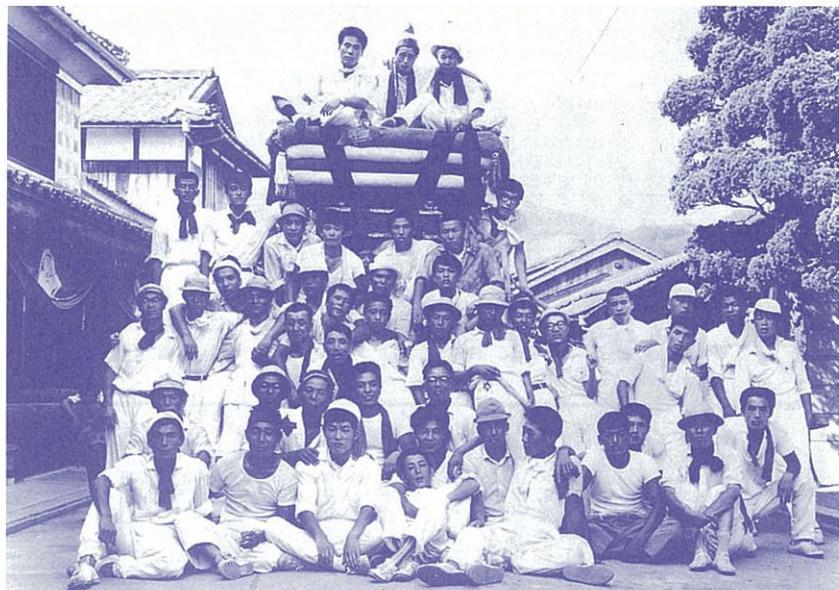
「思い出のアルバム」係

一九六六

昭和41年

あの日

みたらい思い



昭和41年、ほぼ同じ場所での同じくやぐら祭りの記念写真。右の写真の子どもの世代になっている。この頃は、昼のやぐらも男のみだった。



みたらし“や”ん“ゆ”も“伝言板

田おニシのやかに付して表彰

「魅力ある町にするため、観光に力を入れよう」と様々な活動をしている長瀬要悟さん。この度「第1回ふるさとづくり賞・

千砂子波止に建つ灯台を見守り続けて40年。この度、御手洗の大亀美寿栄さん(78)が、長年の功績を称えられて「歎七等宝冠章」を受賞。そのことを報じた記事が朝日新聞(11月3日付)や中国新聞(同)に掲載されました。

大亀さんは昭和31年から第六管区海上保安本部の委嘱で灯台の点灯確認を続けてきました。日没と同時に灯台を見、点灯していないなければ六管に通報。今も思い出に残る出来事は、や



御手洗の食事處でも食べられます

★「頑固豆腐」の御手洗でのお求め先は、今崎商店、ろ市、須賀店です。

御手洗の自慢は数々あれど。まず、その第一回目に「頑固豆腐」をご紹介しましょう。その特徴は、知つて人はよく知つて。そう、固いんです、とつても。でも、それがいい。固いけど、口にすと溶ける味わいがある。以前、木村旅館でこの豆腐を食べた朝日新聞の記者の方が「おいしかった」ということで、製造元まで取材に来られたという話もあります。

島内に頑固豆腐の製造元は3軒。「舌でとけるくらいの微妙な固さ」は大豆の性質とがりを使いこなしの職人技。ぜひ、御手洗にお越しの際は、ご賞味あれ。



頑固豆腐

御手洗の味じまん その①

灯台の点灯40年見守る

受賞を報じる
朝日新聞(11月3日付)

瀬戸内海に浮かぶ大崎下島の東南端に、白い灯台が立つ。豊田郡豊町御手洗、大亀美寿栄さん(78)は40年にわたり、近くの灯台の看守補助員として海の安全を守ってきた。日没と同時に灯台を見て、上保安本部に連絡するのが仕事

買い物の帰り、就寝前、気がつけば灯台に目がいく。1991年9月、風波をふるった台風19号は灯台をも壊し去った。自宅が浸水した、びしょねれになりながら、電話で6管本部に連絡したことが印象に残る。

思い出のつまった灯台は、近くの神社の灯ろうに似せた現状の型に生まれ変わった。「甲子時代でもできる仕事」と謙そんするが、「船長さんはこの灯を頼らにしているのだから、責任を感じます」と話す。



千砂子波止に建つ灯台を見守り続けて40年。この度、御手洗の大亀美寿栄さん(78)が、長年の功績を称えられて「歎七等宝冠章」を受賞。そのことを報じた記事が朝日新聞(11月3日付)や中国新聞(同)に掲載されました。

大亀さんは昭和31年から第六管区海上保安本部の委嘱で灯台の点灯確認を続けてきました。日没と同時に灯台を見、点

灯していないければ六管に通報。今も思い出に残る出来事は、や



見たい！知りたい！伝えたい！

町制施行40周年
記念イベント
大成功！



独特的な楽器で雅楽を演奏する
兵神芳楽会

今年は豊町に町制が施行されて40年。さる10月29・30日「若胡子屋跡」において、記念イベントとして「管絃と舞楽の夕べ」と「句会」が開かれました。「管絃と舞楽」では、アメリカやオーストラリアでも活躍している「兵神芳楽会」（へいしんほうか）がつかいを招いての公演。一部が管絃の部、二部が舞楽、町内外から詰めかけた満場のお客様はひと時、雅な歌と舞の世界に酔いしました。

また「句会」の方では東京や広島からも参加者がおり、こちらも盛況を収めました。

ホームページ開設中！

現在「重伝建を考える会」では、ホームページの開設に向けて準備を進めています。町の自慢、旬の情報を世界に。また、海に向こうの話題をいち早くキャッチすべく、奮闘中です。近日、開設の予定。乞う、ご期待！

曲田町の重伝建
に車に
お問い合わせた。
お問い合わせた。

まずは最新情報

豊町では、ボランティアスタッフによる、無料の観光ガイドサービスを行っています。重伝建指定以来、約2800名もの来町者を案内してきた実績があり、現在は7名のスタッフが在籍。

申し込みは、事前に産業課へ電話すればOKです。この町に生まれ、この町に暮らす人ならではの名調子。人肌の温もりのある観光ガイドを、お気軽にご利用ください。

お問い合わせ／豊町役場産業課
☎ 084666・6・2131

●御手洗訪れた感想・希望
この他、いいこと、載せたいこと、みたら通信の感想など、どしどしあげてください。

本誌でお便りや情報を掲載させて頂いた方には、もれなく記念品を差し上げます。

お便りお待ちしています。

宛先／〒734-103
広島県豊田郡豊町御手洗

「重伝建を考える会」崎崎仙也

●みたら通信なんでも伝言板」係
●編集室より

見つけたりたい！ 曲田町の宝。

第2回写真コンテスト
重伝建からの
お知らせ

豊町を対象にしたものであれば題材は自由。一人何点でも応募できます。行事、町並み、風景など幅広く応募ください。入賞者は賞状と賞金を、入賞作品は豊町のポスター、町勢要覧などに使用させて頂きます。

●締切／平成9年3月10日必着
●発表／平成9年4月中旬

※お問い合わせ・応募先は

〒734-103

広島県豊田郡豊町御手洗
豊町商工会観光部会

☎ 084666・6・2020

大

草分

集

「みたら通信なんでも伝言板」では、皆様のお便りを募集しています。

●御手洗見つけたおもしろい物
●自分しか知らない隠れた名所

●御手洗の昔話・思い出話
または最新情報

●御手洗訪れた感想・希望
この他、いいこと、載せたいこと、みたら通信の感想など、どしどしあげてください。

本誌でお便りや情報を掲載させて頂いた方には、もれなく記念品を差し上げます。

お便りお待ちしています。

宛先／〒734-103
広島県豊田郡豊町御手洗

「重伝建を考える会」崎崎仙也

●みたら通信なんでも伝言板」係
●編集室より

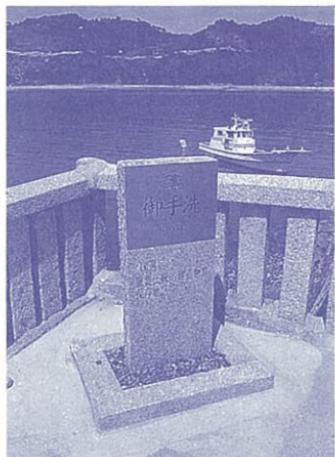
地方からの「情報発信」ということが言われて久しいのですが、具体的になにを、どうすればいいのか、よく解らない。

なぜならば、お祭りがあつても、イベントをやつても、マスコミが取り上げてくれなければ、サッパリ「発信」にはならないからだ。

かといって、よっぽど変わった祭りかなせなれば、お祭りがあつても、イベントでなければマスコミには載らないのだから、マスコミは基本的には頼りにならない。

こうなりや自力で「情報発信」の媒体を創るより仕方がなかろう、というのがこの「みたら通信」を生む基本的な考え方です。

御手洗で現在何が行われているのかを豊町内に伝達するだけでなく、島の出身の方々との交流の場、情報交換の場として利用してください。（長濱）



MITARAI since 1666

- 寛文 6 年(1666) 町屋敷割りを藩より許され、人家が建ちはじめる
正徳 3 年(1713) 町年寄り(大長村の統轄下)が置かれる
宝暦 9 年(1759) 常盤町を中心とした大火(11月)
文化 3 年(1806) 伊能忠敬が御手洗を測量した(3月1~3日)
5 年(1808) 町庄屋が独自に置かれる(初代 柴屋)
文政 9 年(1826) シーポルトが寄港する
11 年(1828) 千砂子波止の築造(11~12年)
11~13 年 住吉神社造営(大蔵 鴻池善右衛門寄進)
(1828~30) 千砂子波止の築造以後、住吉町の埋立てが進んだ
嘉永 6 年(1853) 吉田松蔭が長崎行きの途中に立ち寄る
元治 1 年(1864) 三条実美ら五卿が多田勘右衛門宅(竹原屋)に寄宿する(7月22~24日)
明治 12 年(1879) 御手洗町が大長村より独立
昭和 31 年(1956) 1 町 2 村合併して豊町となる
平成 6 年(1994) 国選定 重要伝統的建造物群保存地区となる



広島県豊田郡豊町御手洗

◎ いろいろな人に
「みたら通信」を友人、知人または豊町出身者に配
りたい！等で本誌が余分に必要な方は左記奥付住所の
「重伝建を考える会」今崎までお問い合わせください。

「みたら通信」を友人、知人または豊町出身者に配
りたい！等で本誌が余分に必要な方は左記奥付住所の
「重伝建を考える会」今崎までお問い合わせください。

この「みたら通信」は
再生紙を使用
しています。